

平成26年度第2回熊本市中央区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

【日時】：平成26年7月29日（火） 14:00～16:00

【場所】：熊本市役所議会棟2階 議運・理事会室

【出席委員】：14名出席

古賀会長、杉光副会長、阿久根委員、荒木委員、今坂委員、岩崎委員、佐竹委員、竹原委員、谷口委員、主海委員、徳山委員、新田委員、水野委員、毛利委員、

【議事要旨】

1・開会

2・議事

（1）平成26年度まちづくり事業の進捗状況について（報告）

（古賀会長） 平成26年度まちづくり事業等（進捗状況）について事務局より説明をお願いします。

（事務局） （資料1に基づき、平成26年度の進捗状況と平成27年度の事業見通しを説明）

【質問・意見】

（新田委員） 2つお尋ねをする。区だよりについて、区民編集員はどれくらい応募されて、どんな人がなっているのか。6番目の町内割入電子地図について、委託業者をどのような形で選定するのか。

（総務企画課） 区だよりの区民編集員については市政だよりで公募した。昨年から継続して活動している方が4人、今年度、募集した方が7人で区民編集員として現在活動している。年齢は、学生から上は70代まで。男女比もバランスよくなっている。

（保健子ども課） 業者の選定については、ホームページ等で広く募集し一般入札をする予定。

（古賀会長） （業者選定については）今のところはまだ具体的な要件は決まっておらず今後検討することについていいか。1番目の質問に対する回答は今の回答でいいか。

（新田委員） 年代がどういう人かお聞きしたかったので、今の回答で幅広いということがわかった。

（徳山委員） 9の防災キャラバンについて、平成27年度は要望があれば継続ということだが、どのような形の要望をとられるのか。

（総務企画課） 地域の自治会の会合で紹介し募集をしたが、2～3件だった。個別に校区に尋ね、要望があるかないか確認し、要望があれば継続するし、要望があまりないようなら事業の在り方について検討していく。

先週、帯山西校区で実施し、今年度は後2回開催する予定だが、まだ要望はない。広報については、シティFMなどラジオで宣伝している。

要望がなければ実施できないが、いい事業なので、要望があれば続けていきたい。

（毛利委員） 防災訓練は、熊本市内では必要であり、キャラバンでやるという内容を、もう少し多くの地域に知らせてほしい。校区の中では、合同で防災訓練をやっているところが多い。訓練が終わったところもあるが、9月10月に計画しているところもある。防災キャラバンは、地域でやっている合同の防災訓練、防災活動とどこが違うか、キャラバンに参加すると今までと違った防災訓練ができるとそういうことをもっと知らせると要望があがると思う。

（古賀会長） 防災キャラバンの募集は、校区自治協議会だけを対象としているのか。

(総務企画課) 校区自治協の会長や、中央区校区連絡会議などを通じ紹介しているところ。出水、帯山から声をかけていただいているので、各地域と話をつめながら拡大していきたいと考えている。

(古賀会長) 中央区の各校区も、川に面しているとか、危険なところが校区内にあるとかいうところは切実な意識があるが、なければどうしても意識が薄いということもあるかもしれない。要望があればというのではなく、むしろ今年から始まったばかりなので、来年度の活動に向けて、今回実施した校区でこんないいことがあった、こんな活動があったなど区だより等で広げてほしい。危険と背中あわせの地域もあるので、来年度の取組みの対象にさせていただきたい。

(古賀会長) 心配いただいているアクティブシニア増殖プロジェクトは寄り合いという形では少しずつ進捗している。計画がある程度はしっかりしたところで報告いただきたい。26年度の目玉事業のひとつである水前寺にぎわいづくり支援事業について、杉光副会長から補足説明があればお願いしたい。

(杉光副会長) 水前寺にぎわいづくり支援事業という形で実行委員会を組織し動かさせていただいている。地元の新水前寺駅界隈、水前寺成趣園を含めて、地元の若者を中心に、商店街の青年の方が集まり、新水前寺にぎわせ隊、実行委員会を組織し活動を担っている。

全体の中身がほぼきまり、具体的なスケジュールと中身、当日の運営をどのようにするかということの落とし込みをはじめたところ。開催時期は、10月の12日の日曜日に決定。熊本城周辺、桜町界隈で行われる大にぎわい市と同じスケジュールの中で、水前寺でも行おうという形になった。

祭り自体の名前は、ネーミングした「水まち水前寺」を表にだして、「水まち水前寺 にぎわい祭り」という形で、12日日曜日、朝の9時から夜の8時まで実施する。

場所は、新水前寺市電の電停、サニーの裏にある戸井の外公園を会場のメインとする。にぎわせ隊が中心となり会場にステージを組みバザーや、高校生が中心となった水前寺 Boys and Girls コレクション、ファッションショーを行う。その中身は、高校生があこがれの職業の制服ファッションを企業などから借りてきて紹介、自分達になりたい職業をアピールする。

また、協賛がついたメガネの似合うコンテストは、水前寺成趣園界隈を散策する形で、ファミリー、親子、恋人などを対象に会場で表彰をする。

地元の中高生がいろんな発表をステージ上でするように各学校と中身をつめている。地元の方がまちづくりの一環で秋の祭りをしようということでステージの催しを実施。

子どもに来ていただくので、働く自動車の展示も近隣の駐車場を借り実施する。地元を中心として水前寺を見直すというまちづくりになっていると思う。

(古賀会長) 10月12日「水まち水前寺 にぎわい祭り」が開催されるということで委員の皆さんもご都合がつかならご参加していただきたい。

数日前に熊日に厳しいことが書いてあった、各区でまちづくり事業をしているが「身近に感じない」という回答が2割という結果があった。市民調査対象の方達にもなかなかこの事業が伝わっていない。例えば紹介いただいた「水まち水前寺 にぎわい祭り」も必ず中央区のまちづくり事業とやっているということ、補足的でいいので、少し伝えていただきたいと思う。

「みんなのまちづくり発信事業」も、配布場所や配布方法など相当努力していると思うが少し工夫としてやってほしい。

(新田委員) 会長がおっしゃったことで、熊日に投稿したが、水前寺もそうだが結構地元が盛り上がっているが、他の市民は知らないということがある。過去のデータからみると市民活動について、同じデータで比べたら割合はあがっており、市民参画の意識はある。市民の参画の意識、参加したいという意識は高まっているが、その情報が伝わっていないということがある。

(古賀会長) 防災キャラバンで話があったが、26年度事業についてきちんとした議論はするが、27年度

も含めて盛り込むような形で考えてほしい。障がい児プレジョブは終わるが、他の事業については、成果を検証しつつ、27年度 of 取組みは妨げないということでした承していただいていいか。

議題の2番目について。平成27年度の中央区まちづくり事業に関するアイデア提案について説明いただきたい。

今日の時点で、採用、不採用はきめず、それぞれの事業提案についてのご意見と作業部会の設置についてのご意見をいただきたい。

(事務局) (資料2に基づき、平成27年度の中央区まちづくり事業に関するアイデア提案を説明)

(古賀会長) ただいまご報告いただいたようにアイデア提案は5つである。昨年度は10件以上あり整理するのが大変だったが、今回は5つなのでそれぞれの提案毎にご意見、ご質問をいただきたい。

また、資料2の上に記載があるアイデア提案の9つの要件を踏まえ、問題はないか総合的に意見の交換をしたい。選定、優先順位については10月の会議にさせていただきたい。

まずは、1つ目の熊本城音楽フェスティバルについてご質問、ご意見ございましたらお願いします。

(杉光副会長) この事業提案は、大掛かりになるのではと危惧している。私が所属している熊本放送では日韓友情コンサートを毎年実施している。今年は韓国蔚山で開催したが、毎年交互に、いろんなタレントや歌手を呼んで開催をしてきた。昨年は学園大学の学園祭と一緒に実施し、その2年前は熊本城の中で開催したという経緯があるが、開催にあたり相当の手間がかかるのと、文化財として難しい部分がある。盛り上がるにはいいが、熊本城を中心として活動するにあたり大きく関わらないと難しいのではと思う。事業の経費についても日韓友情コンサートはすべて持ち出し、無料でしか開催できないので苦労している。規模が大きいので難しいのではと思う。

(古賀会長) 要件に抵触するかでみると(5)実現可能かどうか、というところで検討したほうがいい。今日は意見交換と情報共有であるということ踏まえて、事業についてご意見、ご質問はあるか。

(徳山委員) 提案の中に、集客力がある有名アーティストのほかに地元飲食店の出展や地元アーティストの出演とあるが、地元がメインになるとコスト的にそうでもないと思う。外部から呼ぶとコスト面で難しいが、どちらに重きを置いてされるのかで変わってくると思う。

(古賀会長) そのあたりは今後、提案した方とチェックしながら検討することになる。他の地元イベントや取組みとどのように整合性をつけるのかも難しい。

(毛利委員) 熊本城を活用した音楽のイベントはユニークな試み。杉光副会長がおっしゃった韓国との友情公演は多くの方が参加した。奉行丸、二の丸、三の丸、竹之丸と開催場所はあるが、非常に大きな音が出るということ、雨天の時はどうするかという問題がある。熊本城の利活用については、利活用委員会、特別史跡の保護など、慎重にやる必要があるが、熊本城を活かした地域づくり、まちづくりは基本的にいいと思う。

(古賀会長) そういったご意見を踏まえ、内容を調整しながらになると思う、このままでは委員の皆さんがおっしゃるような難しい。そういったところで工夫するなど、皆さんの経験などから課題などお気づきがあればお聞かせいただきたい。

(新田委員) 今回は意見を出して10月に選定するということだが、今日の意見が例えば音楽フェスティバルの事業提案者に戻されてアイデアを新たに作り直すのか。

(古賀会長) 提案はここでいただいたものが全てなので、補足的に説明していただく、企画書の変更は提出した時点までである。

(新田委員) 今日は意見交換だけで、提案者のほうには今日の意見は何が合ったのかということをお伝えしたいのか。

(古賀会長) 今日は情報交換だけで協議ではない。このあたりについてどうお考えかなど提案者に質問はさせていただく。「熊本城 音楽フェスティバル」については、有名アーティストを呼ぶ、地元アーティストを呼ぶとあるが、どういうメリハリをつけるのか、そのあたりは提案者にお尋ねできる。

(竹原委員) 提案者は、どういう分野の音楽を考えられているのか。

(事務局) 提案者は若い方でロックフェスティバルを考えている。その点、熊本城での開催がどうかというところがある。

(竹原委員) ある程度具体的にどういう分野かというのがないと検討しやすい。そのあたりを提案者にお尋ねいただきたい。

(古賀会長) アイデア提案の募集について、締め切りは終わっているのか。

(事務局) 27年度の事業化を想定する分については、終わっている。

(古賀会長) 終わったということをお踏まえて、他の方に不利益が無いようお尋ねする。今回、もう少し説明がほしいという部分については事務局と私が相談しながら、10月に説明できるよう準備する。

(毛利委員) 3年前には熊本城を使ったイベントがいくつかあったが、その中で取りやめになったのが花火大会。二の丸にお客さんを呼んで藤崎台で打ち上げた花火を二の丸で見た。そのとき二の丸広場に若い人が好きなロック歌手を呼んだが、多くの人が集まりすぎて御幸坂を降りる観客の安全が確保できないということで、6年続いた花火大会が中止になった。それは前の年に神戸の花火大会で死傷者がでたということも要因であったが、一回やって、次ぎ中止となるということがないように、やるならきちんとした安全確保、計画が必要。

去年は細川刑部邸の隣にある三の丸公園でディスコパーティをやった。雨が降ったので観客がそれほど多くなかったが300人弱の若い人が一生懸命踊り、地域の盛り上がり、関心が高まった。このとき開催者が一番心配したのは、地域に隣接したところへの騒音。マイクの向き、交通、参加者の交通をどう確保するかということがあった。

音楽はロックということだが、どのくらいの規模か、具体的な提案になると委員の皆さんも意見が出しやすい。

(岩崎委員) 質問だが、まちづくり事業は、他の今やっている事業と連携してするのは難しいのか。これは単体として考えないといけないのか。既にやっている、火の国まつり、お城まつり、アートプレックスなど中央区ではいろいろ行われている。お城まつりではお琴の演奏や沖縄民謡などいろんなことが行われているので、それにプラスアルファで新たに音楽フェスティバルを熊本城でやるのか、今やっている中にこれを組み込むのか。中央区のまちづくりというだけではないところで、相対的によくなっていけばと思った。中央区ならではの悩みなのかもしれないが。

熊本城は、文化財としての保護で気を使っている場所なので、熊本城だけではなく熊本城周辺ということで広げて考えてもいいかと思う。

(古賀会長) 今のご意見の前段について、提案事業の要件「(6) 同一地域(校区)で各種団体等により現在行われていないものであること」「(7) 市又は区の事業として現在行われていないものであること」をどう考えるかに関わってくる。ロックコンサートというのは新しいが、音楽事業という点では既に行われ

ていると判断した場合、要件を満たさない。

判断する資料を加えながら、次回検討したい。中央区まちづくり事業としてお金を出して行っているということを示す必要もあるので、他との抱き合わせはちょっと難しいというのが私の判断。

(古賀会長) 2「食べて、話して繋がろう中央区」についてご質問ご意見を願います。

(新田委員) 2のベロタッチはどういったものなのか、周知されているのか。

(保健子ども課) ベロタッチは、障がいを持たれているお子さんや発達に不安のあるお子さんの保護者の方と中央区役所と一緒に開発した、ベロ、舌を触るやり方。3点法で、舌の両側と先を触ることで飲み込みが上手になったり、言葉が出やすくなったりするデータがある。健常児のお子さんでも食べるのが遅かったり、極端な好き嫌いがあったり、自閉傾向だったりすると口の中を触らせるのを極端に嫌がるが、その過敏をとることができるということが少しずつ学会でも認められつつある。もっと広く子育てに関わっている人に知ってもらいたい方法。また、ベロは、生まれながら震えておっぱいが飲めるように前後に動く、その後、自分で獲得し上下に動くようになり、コップでむせなくて飲めるようになり、最後に獲得するのが横の動きで飲み込みができ言葉がうまくなる。一生で最初に失うのが横の動きで、言葉がはっきりしなくなり、上下の動きを失うとむせて誤嚥となり、肺炎となる。このベロタッチは高齢者も子どもも副作用もなく簡単なやり方なので、8020としてベロタッチ体操を普及したいというのが思い。

(新田委員) 提案の目的はベロタッチ体操を普及したいというのがメインで、講演会とあるが、中央区役所では、これまで講演会はやっているのか。

(保健子ども課) お尋ねのベロタッチについてその成り立ちを説明したが、目的は子どもたちの心や体が健やかに育つということ。その方法として、はっきり話すこと、食べるのが美味しいということ、また、コミュニケーションとして顔の表情の筋肉、多くは口の周りにあるが、その筋肉の発達を促すことで、子ども達同士のけんかが減るとかいうデータがあるが、口の健康を考えましょうということ。よく噛むことでセロトニンが増えるなど。もっと命のあるものを食べることに興味を高めましょうという活動。食と一緒に活動は、区や市では、講演会くらいしかなく、このような連携した活動はない。

(古賀会長) あわせて担い手、団体を育成しているということを説明していただきたい。行政だけではなく、市民協働で実施していることがわかるのでは。

(保健子ども課) 熊本市では、8020推進員という口の健康ボランティアを育成している。5つの区で実施し、それぞれの区に特徴がある。中央区は、140人超のボランティアがいて、他の4区と同じフッ素洗口という同じ活動だけでなく、オリジナルに開発したもの、資料にもある「うまか体操」などがある。のどにつめて亡くなる高齢者は、交通事故より多いが、できるだけゼロにしようと、食べはじめにこんな楽しい体操をすとのどにつめて亡くなる人が減るのではということで活動をしている。専門性がある方だけではなく、市民と一緒にあって、元気に長生きしようという活動している。食生活改善推進委員さんとも連携がとれているので、声をかけて市民主体でやっていきたいと考えている。

(毛利委員) 中央区は、いろんな健康づくりを小学校区でやっている。26年度の事業であるプレジョブは、発達障がいを持っているお子さんの就労支援で広い意味で健康や福祉の分野に入る。今回の提案について、中央区の健康づくり、まちづくり事業としてはふさわしいと思う。広報手段がこの活動についてまだまだ必要だと思うし、中央区が率先してやる事業として、内容を検討し具体化する必要はあるが、前向きにとらえていい事業だと思う。

(徳山委員) 取組みの課題の中で、小中学校の協力が必要とある。実は、自分の小学校がフッ素洗口のモデル校となっており、そこに至るまで、学校との調整、保護者との調整を1年かけ、モデル校として手を

あげた。学校側の協力が必要とはどのような形か。フッ素については、皆さんの考えもあり、先生が教える時間的な問題、PTA側のボランティアなどいろいろな問題をクリアにしていった。この事業について、学校への協力をどの程度考えているのかお聞きしたい。

(保健子ども課) 提案された方が学校長だったということもあり、軽い気持ちで食べている、何も考えないで子ども達に食べ物を与えているというような社会を変えたいという思いが強く、小学校、幼稚園で口から命をいれることなど食と命をつなげた話をする場がほしいと。皆さんご存知だと思うが、「弁当の日」に子ども自身が弁当をつくることを進めることで、子ども達の食や命に対する意識が変わるという活動があり、熊本でもNHKなどで放映されている。それをもっと子ども達を中心に進めていきたいということで、学校の養護の先生や調理師さん方と協力し、お母さんではなく、子ども達がお弁当を作ることを保護者の方がサポートすることで教育効果も高いといわれる。小中学校に働きかけていくときに、そのような活動の中に入れていきたいと思っている。

(古賀会長) 3「熊本城～新町・古町～中心市街地～水前寺文武両道：八雲と武蔵をメインとした「文学の散歩道」、「不敗の道」の整備について

(佐竹委員) 今回、文武両道ということで、武蔵については文武両道だが、武で柔道家の人の協力を得るということだが、折角なので、熊本には他にも武の要素があり、他のところで残っていない武田流の流鏑馬や、小堀流踏水術など残っている、そこを取り上げると武蔵は薄まるかもしれないが、中央区ということを押せるのではと思う。その点はどう考えているか。

(毛利委員) 今、佐竹委員から武のほうの話があったが、文についても八雲のほかにも中央区に関わった文学者がいる。熊本市が作った文学館マップがあるが、文学資料館でいろんな展示があるので、そういうところと重なる部分があるが、整理して、取り上げていないような人に光をあてる。中央区を文と武のまちのイメージをもっと高くするためには、プロジェクトチームのような作業部会を立ち上げてやっていくのがこの事業としてはいいかなと思う。

(徳山委員) 資料の中に、事務局からの課題で、ハード整備が必要な場合は対象外とあるが、文学の散歩道の整備をハード整備と考えていいのか。

(事務局) 事業提案者は、標識など想定されているようだが、ハード的な要素が加わってくる可能性もあったので、対象外と書かせていただいた。

(古賀会長) この件については、要件の④との問題。施設等の整備や建設を目的としたものではない。付随的な掲示板、案内については妨げない。どういった計画案になるのかをみながら検討。④の要件については例えば福祉センターをつくってほしいなど施設は対象外。

(杉光副会長) 確認したいが、提案者の中に本熊本（ボンクマホン）とあり、書店同士の連携とあるが、本熊本（ボンクマホン）の実行委員会の活動の内容はなにか。

(事務局) 書店をもっと活用しようということで、書店を中心にイベントをしている。熊本の作家を招いて講演会をしたり、書店内にポストカードを並べたり、ゲームをしたりなど書店に来たくなるようなイベントを開催している。

(岩崎委員) 本熊本（ボンクマホン）は、1日古書店を開催し、出したい方が持っている本を出すというような古本のフェスティバルをされている。

先ほど、佐竹委員がおっしゃった流鏑馬はいいと思うが、武道と文学を両輪でだすというイメージが今ひとつわからない。パンフレットに文武を掲載し中央区にあるということをアピールすることかなと思う

が、文学の方に統一、文学の取組みとして文学の散歩道や本熊本（ボンクマホン）の取組みを出したほうがいいと思うが、文武両道をやってみたいという希望なのか？

(古賀会長) メリハリ、小展開してはどうかということですね。事務局からこの点について提案者にお尋ねできると思う。

(毛利委員) 提案者へお知らせしてほしいが、文学で長崎次郎書店が新町にあり、ずっと官報だけしか取り扱っていなかった。開店 140 周年を記念して、明後日オープンする。現在は、長崎書店として上通りに書店をだしている。もともとは、140 年前に長崎次郎さんが始めた長崎次郎書店、当時初めて熊本にできた本屋で、漱石や鴎外も八雲も通った。大正浪漫の雰囲気のある書店にしたいということで準備をしている。文学の散歩ならそういうところも着目していただくといい

(古賀会長) 申し上げていいかわからないが、宮本武蔵は、今後、西区でまちづくりとして活用するのではと思うので、先方の大事な資源をちょっと横取りするのではと思う。北区には武蔵塚公園がある。そのようなことが頭の中にある、ざっくばらんな意見交換として申し上げる。

(古賀会長) 今、出てきたご意見を整理し、提案者と今後、連携、協働の中で膨らませていきたいところもあるので、お互いの意志の疎通をしていきたい。

④「井手を生かしたまちづくり」について

昨年提案されたものと基本的に一緒と考えていいのか。昨年からの経緯を申し上げますと、昨年のアイデア提案で、白川だけが中央区にあるのではない、渡鹿用水、一の井手、二の井手、新屋敷のあたりを通っている川、水前寺を通っている藻器掘川など、水としてもっと歴史に残せる、また、次の子ども達に残せるマップなどをやりたいという提案で、去年は、きちんとした計画というより、熱意や情熱が伝わるというところがあった。その後、メディアで取り上げられるなど、ある程度地元のがんばっておられた方が中心となって、それが提案者である地域遺産研究会という方であるかもしれないが、今回も提案されている。

去年は見守るということで、提案の却下ではないが、資格は十分あり、他の水前寺の事業とどのように進めていくのかということであった。これについていかがか。

(阿久根委員) 帯山西校区でも藻器掘川探検ツアーをやった。事業として、似ているなと思ったのが、藻器掘川も整備されているところとされていないところがある。治水の観点から作ってあるということ詳しい方から説明をききながら、江津湖まで到達する。散策ウォーキングをしながら説明をうけ、防災の観点からなども歩くと面白いと思う。子ども達の勉強にもなる。

(古賀会長) 実際の活動が広がっているようだが。

(徳山委員) 去年の最初の段階では、事務局と提案者で調整をしていくということだったが、その後どの点が変わり、今年度、再提案されたのか？

(古賀会長) 企画書の中身についてはいかがか。私が見る限り、同じような取組みだが、今回は実現ができるということまで落とし込んである。

(事務局) テーマタイトルは同じ。会長がおっしゃったように、去年は、井手をまちづくりに活かしたいという熱意はあったが、具体的な取組みについては提案者自体も考えがまとまらないということだった。その後、事務局と話し合ったが、こういったものというのは出てこなかった。まちづくり懇話会の中でいろんなアイデアを盛り込みながら協議をしていただくとありがたいということで、昨年度は継続審議という整理をさせていただいた。今回のウォーキングなどは具体的な提案として新たに追加されている。

(水野委員) 事業提案についていろいろ協議をしているが、区民の方がこんなことをしたいと提案すると

き、懇話会の会議のように、こんなときどうするか、あんなときどうするかということはまず考えない。こんなことをしたいという漠然な考えを吸い取ってあげ、それをこんな形でなど意見を育ててあげる、区役所職員の方が一緒に考えるという前段階が必要。提案した人がすべての責任、提案者がどう思っているのではなく、今後、ともに育てていくということがシステムとして必要ではと思う。

(毛利委員) 水野委員の意見に賛成。熊本は、地下水 100%で水のまち、水の市(し)と世界的に定着している。私も井手の役割をある程度わかっているつもりだが、これを中央区のアイデア事業としてどのような形でもっていくといいのかと読みながら思っている。私がいる一新校区は、よく調べてみると水の城下町であり、水遺産登録を 16 申請し、3 つ採用された。調査をしていて、熊本には、井手と関係がある手永制度というのがあり、水を監視し配水していた。井手周辺の伝説など掘り起こしをしていくと形が出てくると思う。

(岩崎委員) アクティブシニアのような人たちが「井手を生かしたまちづくり」のような漠としたものをどう形にしていくかということに関わっていくといい、毛利さんのような歴史に造詣が深い方だと今のような見方もあるが。私のように知識はないが、たまたま大井手に住んでいて、大井手は歩くだけですがすがしい、散歩道としてただ知ってもらおうということでも活かしていけると。そのような意見をあくてい部で考えてもらうなど可変性のある形にするといいものができるのでは。

(今坂委員) 井手は知らない人がみると、川だろうなと思っていると思う。白川の渡鹿堰は、加藤清正が造った、お城つながり。それぞれの井手も。藻器掘川は 1 級河川だがちよろちよろ流れていて、残している理由はあると思う。城下町をつくるにあたって、整備したと思うが、井手がどのような役割をしているのか、加藤清正や昔の人がなんのために作ったのか、そのあたりをタイアップして散策しながら、大人も子どもも楽しめるようにしては。何が住んでいるかどうい植物があるかということも興味があるが、加藤清正や昔の人がどう考えてきたかと大人の人も興味を沸くようにすると楽しめると思う。

(古賀会長) 井手の話で、隣の菊陽町では、鼻ぐり井手に随分力をいれている。というのも、北部は栄えているが、南部は農振でできないということもあり、小学生が地域に誇りを持つよう、この 2、3 年、随分経費をかけて、ハード整備をし、かつ観光ガイドの養成までしている。おそらく、井手を生かしたまちづくりは、将来的にはそういうことを考えていくといい。この提案の概要を活かしながら、白川、緑川だけの熊本市ではなく。人間と同じように河川にも戸籍があるので、きちんと調べるとわかる。事業化に 2 年待ってもらって、先ほど水野委員のような提案もあったが、団体がきちんと事業を提案するというのもいいが、手作りの事業提案を 1 年間温め行政の人が手伝い、2 年目、3 年目に実施するというのもいい。予算が縮小された場合そのようなシフトをしてもいい。この事業は、推移を見守りたい。

(古賀会長) 5 「命の授業」によるつながりづくりについて

(岩崎委員) 講演者はどのような人か、

(事務局) 元中学校の先生で、スキーの事故にあわれ、体が動かなくなった方が奇跡的に復活し、その後、命の尊さに気づき、学校など全国を回りながら講演している。

(古賀会長) お住まいは、伊勢原市、関東の方で九州や熊本の方ではない。中学校の先生で教科を担当されるとともに、コーチングでも活動されていた。ホームページに掲載されていたが。

(佐竹委員) 病気からの復帰というと木村アナウンサーもいらっしゃるが。地元にもいらっしゃって活動されていてお話もきける方がいる中、どう違うのか、関東からきてもらう必然性があるのか、その点を伺いたい。

(新田委員) 佐竹委員と関連して、中央区の事業としてどうか。命が大切だが、中央区のアイデア提案として、中央区の特徴を出しているのかわからない。

(水野委員) 話を伺いながら、皆さん、それぞれの思いが強く、それを発信している。要件に沿う、ビジョンにも沿っているが、中央区のまちづくり事業としてやるべきなのか、人権なら公民館でやったらどうかとかを提案者にお知らせしたり、わくわく基金やエンゼル基金などで実施したらいいのではと思う、まちづくり事業とはそもそも何なんだろうと、わからなくなってくる。

(岩崎委員) 提案される皆さんが中央区に限ってやりたいのか、全市、全国に発信したいのか、水野委員がおっしゃったようにそこまで思い至っていない。ただやりたいだけで、たまたま中央区がまちづくり提案事業をやっていて応募されていて、私からみると中央区のまちづくり事業かなという思いがある。

私は、中央区のまちづくり事業として無理に受け入れなくても、ご提案された方に、わくわく基金や、人権推進総室にご提案されてはということをお知らせし、その事業が実現されることで提案者は満足される。

私たちは、より中央区のまちづくりとしてふさわしい提案を採択し実施していけばいいと思う。提案者にすべて責任を負わせるのではなく、よりよい形に、より区民のためになるように、少しずつ変えながらやっていくというのがいい。

(主海委員) 中央区まちづくり事業ということで、中央区 19 校区で、今出ている提案は中央区内、地域のまちづくり的なものであると思う。それでいいと思う。地域で盛り上がっていけば、波及効果、参考になっていくと思う。

蒸し返しになるが、多様化された中で、価値観が拡大していく中、中央区民がこぞって参加できる、参加したいというニーズの把握は非常に難しい。先ほど熊日のアンケートもあったが、あまり気にしなくていいのではと思う、高いほうがいいが、今の時代ではあんなものかなと思う。

水前寺のにぎわいづくりもそうだが、水前寺の地域の方が一生懸命やり、なんとか取り戻そうとしてやられている、それが広がればいいが、地域では盛り上がるが、19 校区が水前寺地域となることは難しい。

井手を活かしたまちづくりは、新屋敷中心で、以前、建築士会青年部会で 4・50 年前になるかと思うが、熊日でも取り上げてもらうなど、盛り上がった時代がある。当時はまだ井手らしく、網を持って子ども達が井手を右往左往していた。また、魚、グッピーがとれるということで、いろんなところ、遠いところから、親御さんが子どもつれてきて、小さな水槽を持ってグッピーを分けてもらえないかということで脚光をあびた時代があった。熊本市内の河川、排水路、井手を含めてそういう馴染みの井手から形が変わってしまった。学校でも、川に入っはいけないという教育、危険が拡大し、井手と遠ざかっている。中央区の場合特にそういう形になっている。井手がある限り、水と井手に親しむという発想で、この提案があると思う。

私達がアイデアを出していなくてこんなことをいうのはどうかと思うが、中央区だけが持つ、都会的なセンス、中心部、他の校区がうらやむような中央区の事業なんか見出せればと思う。各新聞をみていると西、北などそれぞれ区をあげてのまちづくりの材料がある、朝市や西区は海べた、中央区だけが熊本城はあるが、地域としてなかなかまちづくりが難しいと思う。これだけアイデアが提案されたので救われたかなと思う。方向性を見出すのは難しいが、これだけのアイデアがでたので、中央区全体に広がるのを見いだしながら、やっていくことが必要かなと思う。

(古賀会長) 昨年度は各自治協からも出してもらい、本懇話会の中で議論し、その校区だけにとどまるのはご遠慮いただいた。但し、これから他の校区に働きかけ、波及させたい普及させたい、それで成果をみるというのが昨年度の基本的考え。

今年度も、中央区まちづくり事業のアイデアとしてふさわしいかという観点で、10 月は議論したいと思う。なぜこの事業が必要なのかということを中心に説明できないと、昨年は自分だけの校区だけではなく他校区に普及させたいという事業を評価したことを踏まえ、実現可能性や具体的な担保ということは申し上げないが、そういったことを考えながら、選考をしたい。作業部会の設置については、今日は決め

ず、必要に応じて検討させていただきたい。

(古賀会長) 議題の3番目、その他何かあるか。

(水野委員) どうしても中央区なのでまちづくり事業がイベント的なことになりがちだが、そのときに皆さん思いがあり、これをするから集まってください、これをするからお願いしますと、いいことをするからこれをやってねとなると、井手の事業をやるとすると、いいことするから来てねといわれても地域の方の心の中に落ちていない。また、校区自治協の会長に言ったから地域の方には周知してもらっていますではなく、もっと自治会長さん達、もっと地域の方やいろんな方にわかってもらって、みんなでやってみましょうという地域と連携というのを一部の地域の連携で終わらないで進めていきたいという願いがある。今いろんなことが進められている中、そこを忘れずにいたいなと読みながら思った。

(古賀会長) よく言われるがイベントが目的ではなく、イベントを作り出している中でどういった連携、協力を作るのかということが問われている。そういった中で、砂取小学校の取り組みで、「ささえりあ」(地域包括支援センター)に連携団体として入ってもらった。熊本市は、26の「ささえりあ」があるが、そういった事例はあまりない。「ささえりあ」が少子高齢化の中で非常に大きな役割を果たすのであれば、水野委員がおっしゃったように、例えばイベントをやる中、実行委員会や準備委員会に入っただき、個人情報限界もあるが、例えば井手について詳しいじいちゃんがここにいるよという情報交換が可能。イベントをすることをきっかけに、中央区では地域団体の連携がなかなか難しいということがあるが、そういった方向性を今回のアイデア提案の大きな役割と皆さんとの共通認識としてよろしいか。

補足的な事項については、事務局と整理しながら、ある程度企画書について説明できるように提案者の方の願いを形にするようにお尋ねをしていきたい。

特にご質問ご意見もございませんので、これもちまして議事については終了させていただく。

(事務局) 第3回については、10月21日(火曜日)を予定したい。